

# 第1章 高齢者虐待をご理解いただくために

## 1 高齢者虐待の定義と種類

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」(以下「高虐法」という。)では、高齢者虐待とは、「養護者」(高齢者を現に養護する者)及び「養介護施設従事者等」が行うものがあり、次に該当する行為をいいます。

なお、「養介護施設従事者等」とは、次の施設や事業に従事する者をいいます。

老人福祉法に規定する老人福祉施設、有料老人ホーム

介護保険法に規定する地域密着型介護老人福祉施設、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、地域包括支援センター

老人福祉法に規定する老人居宅生活支援事業

介護保険法に規定する居宅サービス事業、地域密着型サービス事業、居宅介護支援事業、介護予防サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、介護予防支援事業

区 分	定 義
身体的虐待	高齢者の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること(殴る、蹴る、つねる、身体拘束/等)
養護を著しく怠る	高齢者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、養護者以外の同居人による身体的、心理的又は性的虐待と同様の行為の放置など、養護を著しく怠ること(食事をきちんと用意しない、入浴しておらず異臭がする、髪が伸び放題である、皮膚が汚れている、/等)
心理的虐待	高齢者に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な対応その他の高齢者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと(排泄の失敗等を嘲笑し高齢者に恥をかかせる、怒鳴る、ののしる、無視する/等)
性的虐待	高齢者にわいせつな行為をすること又は高齢者をしてわいせつな行為をさせること(排泄の失敗に対して懲罰的に下半身を裸にして放置する/等)
経済的虐待	高齢者の財産を不当に処分することその他高齢者から不当に財産上の利益を得ること。高齢者の親族を含む。(日常生活に必要な金銭を渡さない/使わせない/等)

表中( )内は厚生労働省実施「家庭内における高齢者虐待に関する調査」による言葉を引用

## 2 高齢者虐待の要因

高齢者虐待の要因については、これまで研究者等により行われた虐待に関する各種研究や調査では、次のことがあげられています。なお、要因は、単独の場合もありますが、2つ以上のものが複雑に絡み合う場合もあると考えられます。

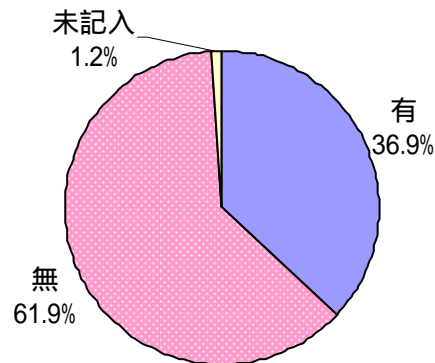
区 分	内 容
養護者側の要因	心身の疲労 高齢者や他の家族との人間関係（過去からのものを含む）の不和 介護の知識や技術の不知／等
要介護高齢者側の要因	介護者への感謝心の欠如や過度な要求 周囲との調和が困難な性格、認知症、精神障害 介護に対する抵抗／等
社会・環境要因	介護サービスを受けるのは恥ずかしいとか、介護は女性や嫁がすべきと考える精神風土 保健福祉サービスの量の不足や質の悪さ 身近な相談窓口の不知／等

## 3 高齢者虐待の実態

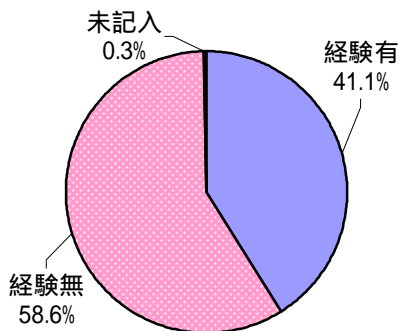
本県で、平成16年9月に、居宅介護支援事業所及び介護保険施設等に勤務している介護支援専門員に対し「高齢者虐待に関するアンケート調査」を実施しました。その結果、虐待を受けたとみられる高齢者を担当したことがあると回答した者が、全体の36.9%に上り、うち「居宅」では41.1%、「施設」では26.4%が遭遇したとなっています。このことから、本県では、高齢者虐待が、潜在的には多数発生していると考えられます。

## 【調査結果】

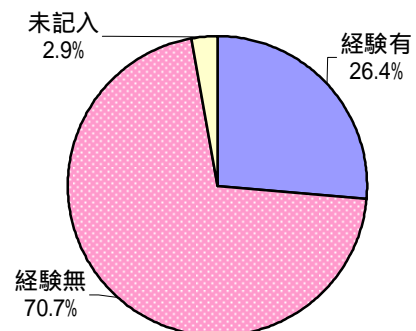
### 介護支援専門員における高齢者虐待の取扱経験の有無（回収数 492 名）



#### (居宅介護支援事業所に勤務している介護支援専門員)



#### (介護保険施設に勤務している介護支援専門員)



（詳細は、末尾参考資料に掲載）

また、これまで研究者等により行われた高齢者虐待に関する各種研究や調査では、次のような傾向があります。

#### (1) 被害高齢者の状況

- ・ 男性よりも女性が虐待を受けることが多い。
- ・ 高年齢者ほど虐待を受けやすく、ADLの状況（日常生活のための活動がどこまでできるかを示したもの）から見た場合、自立高齢者よりも要介護高齢者の方が虐待を受けやすい。
- ・ 認知症の高齢者が多い。
- ・ 介護を受けている期間が長いほど、虐待を受けやすい。
- ・ 「在宅」では、身体的な虐待と介護や世話の放棄が多く、「施設」では、他の入所者から身体的な虐待を、施設職員から心理的な虐待を受けることが多い。

## (2) 虐待者の状況

- ・ さまざまな年代に見られるが、特に 40～60 歳代が多い。
- ・ 親族が多く、特に息子が多い。
- ・ 同居が多い。
- ・ 虐待をしているという自覚は低い。

## (3) 介護者の実態

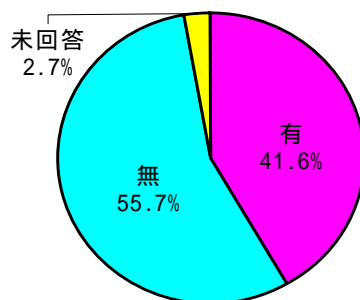
本県で、平成 16 年 8 月に、在宅で要支援・要介護認定を受けてものを介護しているものに対し、「介護者調査」を実施しました。その結果、「介護を代わってくれる人がいる」と答えたものは、41.6%です。介護者の健康状態については「まあよい」、「とてもよい」と答えたものは、59.8%となっています。

介護をされていて感じることは、「最期まで見てあげたい」、「前向きに考えていこうと思う」と介護を肯定的に受け止めている介護者が要支援、要介護 1 の軽度の認定者の介護者に多くなっています。「夜眠れない」、「手が回らなくて困る」、「精神的に精一杯である」、「自由な時間が持てない」と答えたものは、中重度の介護者に多くなっています。

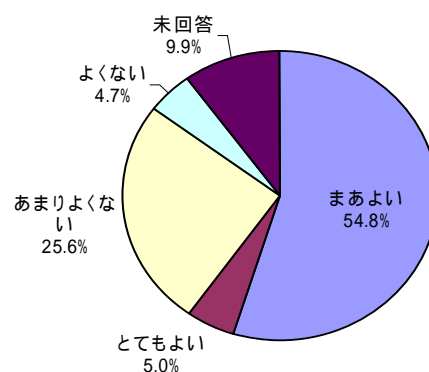
また、介護者の健康状態が「とてもよい」、「まあよい」と答えたものは、介護を肯定的に受け止めているものが多くなっています。

### 【調査結果】介護者調査の結果（回収数 2,004 例）

介護を交代してくれる人の有無

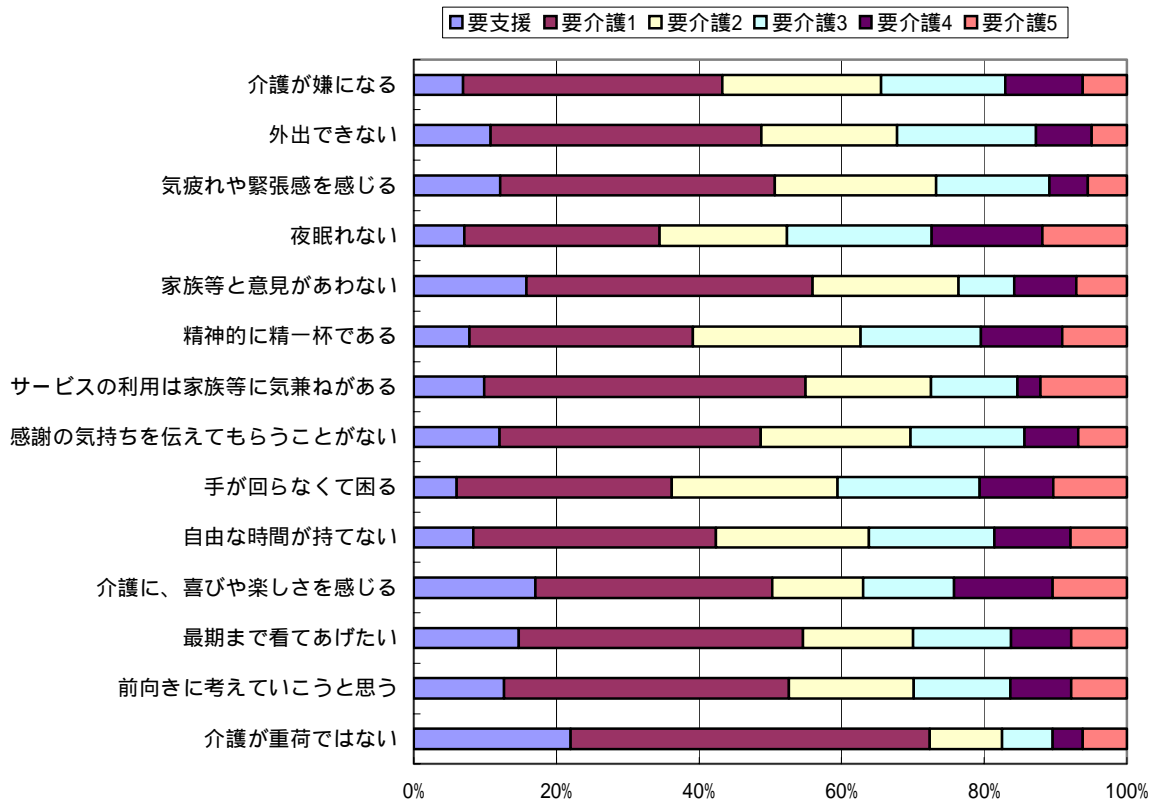


介護者の健康状態

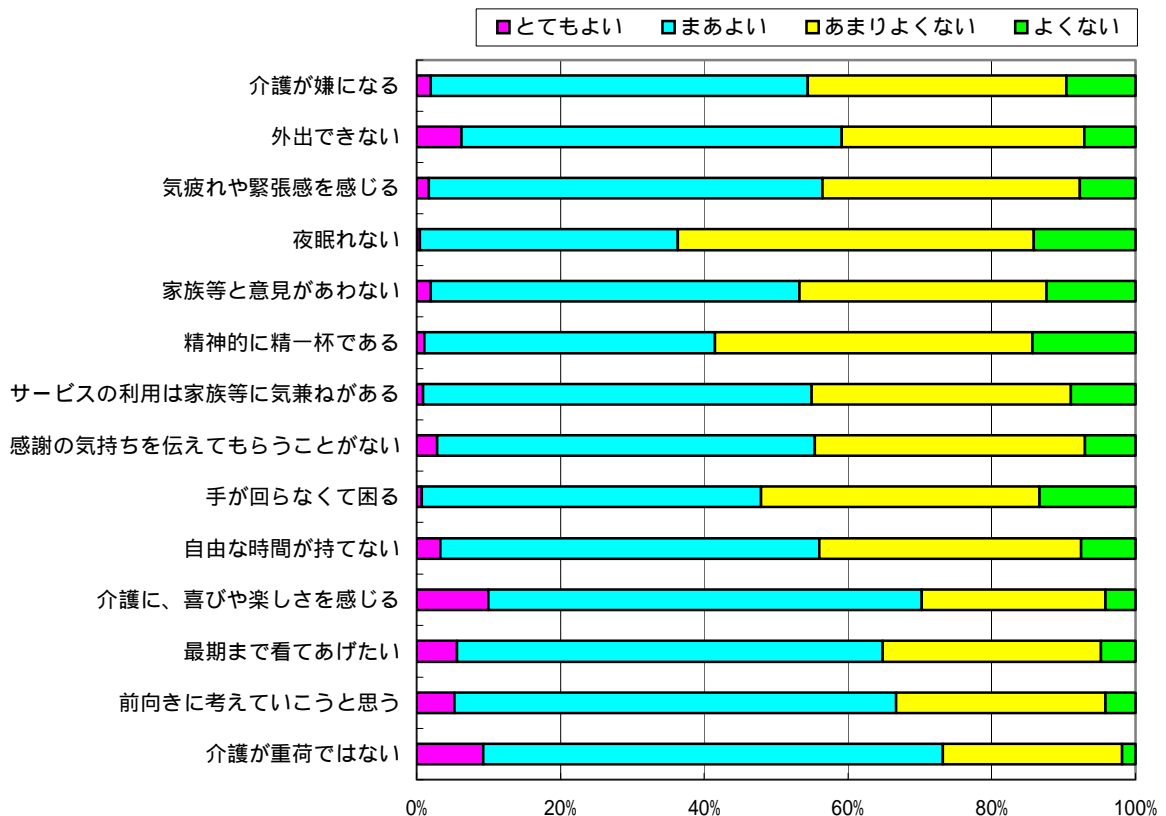


## 介護をされていて感じること

### 1 要介護度との関係（複数回答）



### 2 介護者の健康状態との関係（複数回答）



（詳細は、末尾参考資料に掲載）